愛西市子どもの心の健康づくり事業
（１）体系図

子どもの心の健康(生きる力)

子どもの心の健康

保健センター

目　標

妊娠期･乳幼児期に安心して子育てすることで､子どもが愛されている実感を持つことができる

事　業

保健事業の充実と、育児支援の取り組み、いのちの授業への協力

保育園･幼稚園

目　標

一人ひとりかけがえのない存在であることを実感し、子どもに健全な心が育まれる

事　業

「試して、なるほど！健やかな子供を育てるための排便と睡眠の話」の講演動画配信

小学校

目　標

「かけがえのない自分」を実感し、自分を肯定的にとらえることができる

事　業

10 歳の集いの実施

中学校

目　標

命の尊さを知り､正しい選択ができるようなライフスキルを獲得する

事　業

いのちの授業の実施

家　　庭

地　　域

子育て中の家庭と、子どもを見守る地域づくりの推進

事業の推進体制

事業推進実行委員会

医師会代表、歯科医師会代表、学識経験者（大学教授）
保健所長、ＰＴＡ代表、保育園保護者会代表
住民代表２名、学校教育関係者、小中学校長代表
養護教諭代表、子育て支援課長、園長代表

１０歳の集い説明会

大学教授、小学校教諭、
保健師

いのちの授業打合せ

養護教諭、保健師

（２）１０歳の集い

〜思春期への助走、そのスタート地点としての「１０歳」〜

１　目的

思春期の問題行動はさまざまな要因から起こると考えられますが、子どもの成長過程のそれぞれの時期の課題を明確にし、健全な心をはぐくむ取り組みが求められています。

思春期という発達の節目を「跳び箱」にたとえると、「１０歳＝小学校４年生」は、踏み切り板（１３〜１４歳）めがけて助走を始める時期にあたります。

１０歳のこの時期にこれまでの自分の成長を振り返り、それを支えてくれた人たちの存在に気づくことで自己肯定感を高めます。さらに親や家族ばかりでなく隣人に見守られて育つことができる地域づくりを目指して、これからの成長を見守ってくれる大人たちとの出会いのきっかけとなるような、家庭や地域と学校が協同で行う取り組みとなることを目指します。

２　対象

小学校４年生

３　１０歳の集いの内容（過去の取り組み例）

（１）子ども自身が自分の成長を振り返る

１年間をかけて、授業で「誰とも違うただ一人の自分」について学び、夏休みの課題「私の宝物探し」などを通してこれまでの成長過程を家族とともに振り返り、周囲の人にとって「かけがえのない存在であり、みんなから慈しまれてきた自分」を実感することで自己肯定感を育てます。

このように心と体の成長についてさまざまな角度から学んだことを、「１０歳の集い」に向けて学校ごとにさまざまな視点でまとめます。

（２）地域の人たちとの出会いの場とするために

「１０歳の集い」を行うに当たり、身近な地域の人々が少しでもたくさん出席してもらえるよう呼びかけます。

（３）１０歳の集いの開催

子ども自身が１学期から学んできたことを、テーマを決めて小グループに分かれ、家族や地域住民の前で一人ひとりが数分間の発表を行います。

これを通して子ども自身は「やり遂げた」実感を持つことで自己効力感が高まります。また、家族はこれまでの子育てを振り返り、家庭の中で成長する存在から地域の中で成長する存在としての子どもを意識する機会となります。一方、地域住民にとっては身近な子どもの存在を意識するきっかけとなり、「見守っていこう」という気持ちを深める効果が期待できます。これは、子どもの非行ばかりでなく、犯罪に巻き込まれることを防ぐ地域づくりにもつながるものと考えられます。

（３）いのちの授業

１　目的

心の問題に根ざした問題行動は 10～14 歳に現れることが多く、この時期に自分の中の生（性）とどう出会い、コントロールする力を身につけるかが、大きな課題となります。

そこで、中学校 2 年生を対象に、赤ちゃんと保護者とのふれあいを通して、命の尊さについて学ぶ機会とし、継続した関係づくりを実現させることで、中学生自身が子どもの成長を学び、将来の親としての自分をイメージできるようにします。

また、協力者である親自身も中学生との継続的なかかわりや、地域の関係者との出会いを通して孤立を防止し、育児不安の軽減を図る機会とすることを目指します。

２　対象

いのちの授業：中学校 2 年生

３　いのちの授業の内容

区分	いのちの授業
開催時期	各中学校と調整
開催時間	各クラス授業 1 時間（学校の希望により合同も可）
会　　場	各中学校
目　　的	①　期待されて生まれてきたことと受け継がれる命について学ぶ ②　赤ちゃんと育児中の親に関心を持ち、将来の自分の姿と合わせて考える。
取り組み例	①「命の大切さ」を考える ②　妊婦体験 ③　沐浴人形を使用した抱き方演習 ④　育児中の母親と赤ちゃんの参加により、子育てについて話を聞く ⑤　赤ちゃんの抱っこ体験をする
担 当 者	担任教諭、養護教諭、保健師、乳児とその保護者